

2018年6月27日 国際ふぐ協会 代表 古川幸弘

この度は初めて中国安徽省合肥市漁業祭に招待され参加する事になりました。 ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。 簡単では御座いますがレポートを記入しましたので、ご一読いただければ幸いです。 今後とも国際ふぐ協会を応援いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

---- 記 -----

2018年6月22日~23日 第二回中国国際現代漁業・漁業科学技術博覧会 中国安徽省合肥市濱湖国際会展センター





1. 準備

中国で初めての日本産フグのプロモーションという事で気合いを入れて準備しました。全国海水魚協会さんと下関唐戸市場さんから宣伝用ポスターなどご協力いただきました。

2. 開催前日

とにかく強かです。

事務局より1日遅れて、香港ふぐ協会員とジェトロ上海の 心強い助っ人2名と私は開催前日に合肥市に入りました。 18:30からの「歓迎レセプション」には少し遅れましたが、 そこでは「中国漁業協会の林会長、張副秘書長」から 日本代表チームの席を設けていただき歓待されました。 「中国水産流通加工協会の朱秘書長、王主任」からは 中国フグの貯金箱をお土産までもらいました。 (お土産産業にも力を入れていると感じました。)

前日に国際ふぐ協会の事務局は中国漁業協会と 中国水産流通加工協会に日本産フグの輸入に協力 してもらうようお願いしました。

中国水産流通加工協会は加盟が 2000 社を超えて拡大中ですが、最近はベトナムなどに加工の仕事を取られ、再び日本にアプローチしている状況です。



3. 開催日

<開会式>

国際ふぐ協会の代表として合肥市長などと一緒にオープニングセレモニーに参加しました日本風ということで法被をきたら、林会長から大変喜ばれました。



<日中フグ交流会>

11:00~12:30 までは日中フグ交流会です。

午前中は日本、午後から中国と言っていましたが、合同となりました。メイン会場に大きな舞台と豪華な音響セットを用意してくれました。



中国漁業協会の張さん司会で、同協会の彭常務から挨拶があり、

フグ部会孟副会長の部下「大連天正集団の胡氏」より中国フグの現状説明がありました。

- ・中国には日本風と中国風のフグレストランがある
- ・フグ加工品もたくさん作っている
- フグを扱う企業もたくさん増えている

- ・将来的にも有望な魚だと思っている
- ・今後フグは専門店で展開されて行くだろう
- ・現在 300 店以上ある
- 日本がすごく参考になる
- ・2020年には1000店になる
- 5万トン100億円市場に成長するだろう
- ・天正集団は大連でフグ養殖、加工、レストランを経営している
- ・大連に来てください。
- ・10店舗を経営さている

引き続き古川が

- ・中国人が好きな日本、
- ・養殖トラフグについて、
- ・日本人が大好きふぐ料理の説明をパネルを使って説明しました。 中国の方々は熱心にメモをとっていました。

その後は水産流通加工協会と中国ふぐ部会と私でディスカッションとなりました。

- ・中国はもっと日本にフグを輸出したい
- ・日本のフグのノウハウを勉強したい
- ・日本のフグ制度について多く質問されました (同じ制度を中国でやったら日本にもっと輸出できると思ったのかも。)
- ・国際ふぐ協会は中国に支店はないのか?
- ・メンバーになれるのか?(興味を持ったようだった。)
- ・こちらからは日本フグを輸入したいか?
- ・日本フグを輸入できたら需要はあるか? との質問を何度もしたが、まともな回答はありませんでした。

<ブース展示・試食>





ブース位置はセンターで大きく立派な装飾でしたが、試食は少ない人数の中でみんな協力してやりました。

- ・一番人気だったのは唐揚げです。正直、食べ慣れているからでしょう。
- ・安徽省は白酒 45%アルコールの名産地のためか、 ヒレ酒はアルコールが低いので何度?とよく聞かれました。
- ・珍味と刺身は生食の習慣がないため反応はイマイチです。

ジェトロさんから安徽省は上海近いのにあまり裕福ではない省とのことで、 寿司もそんなに盛んでないとのこと。 苦労してアンケートも集めたので結果が楽しみです。

<合肥漁業祭>

合肥入りして聞いていた会期が1日延びており驚きました。また漁業祭は初日の昼から人もまばらで、あと2日間も大丈夫?と思いました。

しかし本展示会は中国内地での水産業界の近代化を目的とした開催であり、そこに招待され 参加できたことは大変名誉なことですが、町興し的な要素も強く、中国だけに「<mark>胡蝶之夢</mark>」 という言葉が浮かびました。まさに夢か幻か。

<フグ屋が来店>

・日本にフグを輸出している大連富谷集団有限公司さんが来て、

日本のフグについてとても興味あり、協力すると言ってきました。

海面養殖が中心ですが6000トンの超低温倉庫を持っている大規模なフグ生産・加工・販売 天正集団とはライバルらしいので今後は両社とも情報交換していきます。

・合肥に日本食レストランを3店舗やっているシェフが試食唐揚げの出来をチェックして くれました。

日本からもマグロやウニ以外にもフグを仕入れたいと希望しています。 今は中国産トラフグを仕入れて日本式で1人15,000円で提供しているようです。

- ・山東省の商社から<mark>陸上養殖場の様子と中華フグ料理を動画</mark>で見せてくれました。 10~15 c mのトラフグが丸身のまま何匹も入って鍋に煮込まれています。 卸値は 40 元とのこと
- ・地元の人からメフグは長江ではもうとれない、養殖メフグ 10~15 元。 ふぐ姿(丸身のまま) タレ焼きが人気のようです。
- ・中国は限定した陸上養殖場のみに許可を与えているので、

毒の無い責任を業者の判断で運用させているようです。

ある意味除毒の必要がなく、価格を安く流通させることが出来ています。

将来日本産フグが解禁されても中国産より安心感はあるが、高いということで、

一般的には広まらないと確信しました。

- ・日本産は安心だけど高いという人もいた。
- ・展示の養殖トラフグミガキをみて尻尾がきれいなので、

中国では天然で売れるよ!と真面目な顔で言われた。

- ・刺身はいつ作ったのか?と尋ねる人が多かった。刺身にされると信用できないのか、 活魚=安心というアジア独特の感覚があるのかもしれない。
- ・買う気もないのに必ず価格も聞かれる。商売気が多い。
- ・活物好きなところも含めて中国は大阪人みたいだ。(笑)

それで訪日は大阪が人気なのかもしれません。

ということは必然的にフグが人気になるということになる。

青島、大連、上海周辺でもフグまつりがあるようだ。

今後はいろいろと誘われそう。

上海ぐるなびでフグ料理店が5つ星をとっていた。ぐるなび5つ星はなかなか取れないらしいので中国は都会からフグ食が広がっている。胡さんが言っていたのは本当だった。

<招待>

中国漁業協会さんに法被を着てもらい記念写真をとりました。



8月のインターナショナルシーフードショー東京へ中国漁業協会ふぐ部会と 日中フグ交流会をやりたいと相談して快諾いただきました。 今後は事務局が調整します。

<現地反響>

後日、合肥市のHPでは漁業祭・博覧会での日本産フグの交流会や試食の実績が掲示されました。



您现在的位置: 首页>国资动态>企业动态

第二届中国国际现代渔业暨渔业科技博览会在滨湖举办

发布时间:2018年06月22日 15:23 来源: 政投公司

第二届中国国际现代渔业暨渔业科技博览会将6月22日至24日在合肥滨湖国际会展中心举办。展会由中国渔业协会主办,中国渔业协会各分会、各省渔业协会、安徽省渔业协会、巢湖市水产局共同协办,并得到农业农村部长江流域渔政监督管理办公室、全国水产技术推广总站、中国水产科学研究院、中国科技新闻学会、安徽省农业委员会、韩国水产会、韩国水协中央会、大日本水产会共同支持。

本届渔博会汇聚来自北京、上海、深圳、福建、安徽、山东、浙江、江苏等地区的近500家参展企业,境外展商主要为韩国日本地区水产企业及协会。集结了各类渔业科技产品、养殖技术及设备、水产饲料及动保产品、海产鲜活品以及现代休闲即食海产等产品品类进行展示,更有中国渔文化及水族观赏鱼大型创意体验展进行展出。为帮助参展企业开拓安徽及周边省市市场,本届渔博会首次开展"采购商一对一对采购洽谈会"活动,将分别进行"水产养殖"和"现代水产食品"两大主题对接会。

第二届渔博会中还精心策划了一系列有针对性的专业会议及趣味性的 互动活动。专业会议包括渔业科技成果奖励申报培训、现代渔业技术模式 报告会、国际河豚鱼协会交流活动、渔业科技支持乡村振兴论坛、中国渔业 协会水产养殖投入品分会成立大会、中国渔业协会红螯螯虾分会成立大 会、渔业大数据应用研讨会、中国渔业协会市场分会成立大会,以及评奖颁 奖活动等。互动活动包括日本河豚鱼刺身试吃品鉴会,龙虾现场试吃品鉴 活动,观赏鱼手机摄影大赛、水族造景大师表演及现场体验活动、世界旅游 小姐现场体验互动活动,观赏鱼拍卖活动等,让专业观众和普通市民满足 参展需求的同时尽情享受到参展的乐趣。

【收藏本页】【打印本页】【关闭本页】

站点地图 | 关于我们 | 联系我们

合肥市国有资产监督管理委员会主办 版权所有 © 网站标识码:3401000106 地址:合肥市政务文化新区天鹅湖畔小区A1号楼 电话:0551-63536586 (传真)63536586 平台技术支持:北京拓尔思信息技术股份有限公司







<まとめ>

中国漁業協会、中国漁業協会ふぐ部会、中国水産流通加工協会、安徽省合肥市、それぞれの思惑が入り乱れた漁業祭でした。

もちろん我々も日本産フグを中国に輸出させるきっかけ作りが目的なのでタヌキとキツネです。この駆け引きの場では通訳の能力がもっと高ければよかったと思いました。

そして、この中国を僅かな経験で自分なりに理解したことは、

① 中国の都会部でフグ食が急速に拡大している。

今後は地方にも広がるので、中国のフグ産業の規模は拡大していく。 独占された市場なので、当人たちの焦りは感じなかった。

②日本へも販売を強化したがっている

メフグを販売したいという人はいなかったが、 少なくともトラフグはもっともっと増やしたいようだ。 日本の安全基準で中国にて製品化し、日本へ販売したいと思っている

② 日本産フグが中国で輸入される可能性

0%ではないが現状のままではかなり難しい 中国漁業協会、中国水産流通加工協会の後押しがなければ不可能である。 中国の富裕層に日本産フグ待望論がでるか、中国フグに大きな問題がでるか、 彼らの利権欲を活かして日本産フグの販売独占をさせることも必要かも。 海千山千の中国フグ部会では日本産フグのアプローチが分かれそうな予感がした。

④日本フグが中国で解禁されたとして

トレーサビリティ、商標、GIなどの仕組みが整ってからでないと危ない。 マーケットは富裕層、中国を信用していない人が多い。

日本産を表示した高級フグ料理店が理想。

皮肉なことに日本では日本産を表示していない料理店が多いのに

中国では日本産を表示する必要がある。

「長崎○○漁協産」とか、「下関ふくGⅠ」とか、

ブースにきた人が養殖物を天然で販売できると平気で言ってくるように、

「大規模」という魅力はあるが、「偽装リスク」がすごく高い国だと思いました。

今度またチャンスがあれば中国の都会部で情報収集をやってみたい。

今後とも国際ふぐ協会は中国漁業協会と中国水産加工流通協会と友好なお付き合いを 継続して、日本産フグの中国解禁を模索していきたいと思います。

長々とご覧いただきありがとうございました。